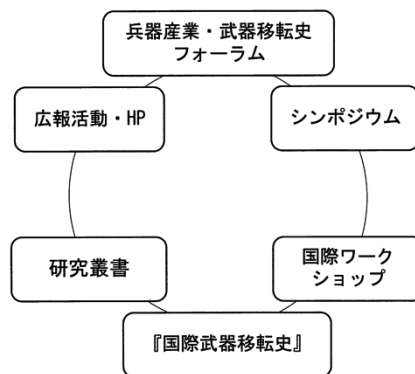


国際武器移転史研究所の活動（中間報告）

国際武器移転史研究所は、2018年8月1日に明治大学特別推進研究インスティテュートに選定された。このインスティテュートは明治大学研究・知財戦略機構の附属研究機関に属し、大学の特色を活かした世界的水準の学術研究及び応用研究を推進する卓越した研究拠点を形成することを課題としている。

こうした課題を担うべく、本研究所は、総合的歴史研究、すなわち経済史・政治史・国際関係史・帝国史・軍事史などを含めた総合的な視点から、軍縮と軍備管理を取り巻く近現代世界の本質的構造を解明することを目的として、次のような相互に関連する6つの取り組みを追求してきた。以下はその中間報告である。



- | | |
|-------------------------------------|----|
| (1) 研究所機関誌『国際武器移転史』（創刊号～第11号） | 68 |
| (2) 研究叢書（①～⑥） | 71 |
| (3) シンポジウム | 73 |
| (4) 国際ワークショップ | 75 |
| (5) 国際セミナー | 75 |
| (6) 兵器産業・武器移転史フォーラム | 77 |

(1) 研究所機関誌『国際武器移転史』（創刊号～第11号）

創刊号 / 第1号（2016年1月）

『国際武器移転史』の創刊によせて

横井勝彦 (1)

論説

国際武器移転史研究所の目指すもの

横井勝彦 (3)

戦争と平和と経済—2015年の「日本」を考える—

小野塚知二 (15)

イスラム過激派のネットワークと現行世界秩序の変化

佐原徹哉 (41)

武器移転規制と秩序構想—武器貿易条約(ATT)の実施における課題から—

榎本珠良 (53)

第2号（2016年7月）

『国際武器移転史』第2号の刊行によせて

横井勝彦 (1)

論説

ヴェルサイユ体制下ドイツ航空機産業の世界的転回
—ナチ秘密再軍備の前提を考える—

永岑三千輝 (3)

軍事航空と民間航空—戦間期における軍縮破綻と航空問題—

高田馨里 (23)

第一次大戦期の英米によるロシア向け小銃弾の生産
—グリーンウッド&パトリック社とレミントン社を事例に—

高柳翔 (41)

研究ノート

2016年8月の武器貿易条約(ATT)第2回締約国会議に向けて—第1回締約国会議およびその後の論点—

榎本珠良 (67)

書評

Thomas Mahnken, Joseph Maiolo and David Stevenson (eds.), *Arms Races in International Politics: From the Nineteenth to the Twenty-First Century*

横井勝彦 (85)

小谷賢著『インテリジェンスの世界史—第二次世界大戦からスノーデン事件まで—』

渡辺昭一 (91)

第3号（2017年1月）

『国際武器移転史』第3号の刊行によせて

横井勝彦 (1)

論説

Controlling Arms Transfers to Non-State Actors: From the Emergence of the Sovereign-State System to the Present

Tamara Enomoto (3)

Post-Cold War Arms Recycling and the Genesis of the “Islamic State”

Tetsuya Sahara (21)

A Deal between EU and Turkey on Matters of the Refugee, Readmission and Visa Liberalisation

Musutafa Türkes (31)

From Collective Memory to Frontline Reality: The Greek State and Society Confronted with Migrant and Refugee Question(s), 1980-2016

Tasos Kostopoulos (41)

ジュネーヴ軍縮会議(1932～34年)に至るイギリス国際軍縮政策—軍備の予算的制限案をめぐる—

松永友有 (51)

第二次ロンドン海軍軍縮会議予備交渉の過程

小谷賢 (75)

—フランシスコ会士によるローマ教皇の「軍事行使権」論について—Fray Martin de la Ascenciónの『Relación』の分析—

高橋裕史 (91)

書評

P. J. Cain and A. G. Hopkins, *British Imperialism: 1688-2015, 3rd edition*

竹内真人 (115)

Stephen C. Sambrook, *The Optical Munitions Industry in Great Britain, 1888-1923*

山下雄司 (119)

第4号（2017年7月）

『国際武器移転史』第4号の刊行によせて

横井勝彦 (1)

論説

Small Arms as a Global Public Policy Challenge: A View from a Participant-Observer

Keith Krause (3)

The Development of War Studies at King's College London

Josef A. Maiolo (17)

Institutional Dynamics, Civil-Military Relations and Japan's 1936 Withdrawal from the Washington System

Lionel P. Fattou (25)

日清戦争期における高田商会の活動 —英国からの「戦時禁制品」輸送を中心に—

奈倉文二 (41)

17-18世紀スペイン領南米ラプラタ地域のイエズス会布教区における銃器配備

武田和久 (63)

戦間期ドイツから日本への航空技術移転—日本航空技術「自立」化過程と「軍縮下の軍拡」—

西尾隆志 (89)

第一次世界大戦期の対敵取引禁止政策と日本—総力戦と「経済制裁」—

諸橋英一 (117)

研究ノート

2017年9月の武器貿易条約(ATT)第3回締約国会議に向けて—第2回締約国会議およびその後の論点—

榎本珠良 (141)

書評

沢井実著『帝国日本の技術者たち』

千田武志 (159)

第5号(2018年1月)

『国際武器移転史』第5号の刊行によせて

横井勝彦 (1)

論説

British Tank Production and the War Economy, 1934–1945: Important Considerations for Industry

Benjamin Coombs (3)

Convertibility and the Militaristic Perversion of Aviation in Disarmament Discourses, 1919–1945

S. Waqar H. Zaidi (19)

The Elisions and Elusions of Gentlemanly Capitalism

Andrew Dilley (37)

Broadcasting Britishness during the Second World War: Radio and the British World

Simon J. Potter (49)

冷戦期南アジアにおけるイギリスの軍事援助の展開

渡辺昭一 (59)

インドの兵器国産化政策と軍事援助

横井勝彦 (85)

遺産と新たな挑戦—第一次世界大戦前の国際連盟をめぐる平和思想とネットワーク—

貝賀早希子 (107)

アメリカ企業経営者の請願活動と1924年移民法の成立—連邦議会および労働省宛て請願書の分析を中心に—

下斗米秀之 (127)

研究ノート

戦間期イギリスにおける戦車生産と輸出に関する研究展望

山下雄司 (149)

書評

横井勝彦編著『航空機産業と航空戦力の世界的転回』

萩原 充 (161)

田嶋信雄著『日本陸軍の対ソ謀略

—日独防共協定とユーラシア政策—』

小谷 賢 (165)

第6号(2018年7月)

『国際武器移転史』第6号の刊行によせて

横井勝彦 (1)

論説

The Availability Puzzle: Considering the Relationship between Arms And Violence Taking Place within States

Nicholas Marsh (3)

Ugandan Pastoralists' Everyday Histories of Gun Acquisition and State Violence

Itsuhiro Hazama (23)

Arms Availability and Violence in the Ethiopia-Kenya-South Sudan Borderland

Toru Sagawa (39)

Giving Up the Gun? Overcoming Myths about Japanese Sword-Hunting and Firearms Control

Tamara Enomoto (45)

Total War and Japan: Reality and Limitations of the Establishment of the Japanese Total War System

Atsushi Koketsu (61)

オーストラリアにおけるナショナリズム研究と世界大戦の記憶—「ブリティッシュ・ワールド」論の視点から—

津田博司 (73)

1930年代におけるドイツから日本への航空技術移転—ハインケル社と日本海軍との関係を中心に—

西尾隆志 (93)

書評

榎本珠良編著『国際政治史における軍縮と軍備管理—19世紀から現代まで—』

後藤春美 (119)

千田武志著『呉海軍工廠の形成』

奈良文二 (123)

第7号(2019年1月)

『国際武器移転史』第7号の刊行によせて

横井勝彦 (1)

論説

The Decolonization of the Arms Trade: Britain and the Regulation of Exports to the Middle East

Daniel Stahl (3)

ジーメンス事件の再検討—「海軍収賄事件」裁判記録の分析を通じて—

奈倉文二 (21)

呉海軍工廠形成の目的とその実現の方策—呉海軍工廠第3船台建設の謎とその解明を通じて—

千田武志 (43)

研究ノート

武器貿易条約(ATT)第3回および4回締約国会議の論点

榎本珠良 (67)

書評

Christopher W. Miller, *Planning and Profits: British Naval Armaments Manufacture and the Military-Industrial Complex, 1918–1941*

横井勝彦 (87)

第 8 号 (2019 年 7 月)

『国際武器移転史』第 8 号の刊行によせて

横井勝彦 (1)

論説

History of Arms Transfer Control and Challenges Facing the Arms Trade Treaty

Tamara Enomoto (3)

Can the Arms Trade Treaty Increase Transparency in International Arms Transfers?

Paul Holtom (19)

Challenges in Developing a Risk Assessment Criteria for Arms Transfers In Southeast Asia

Mitzi Austero and Pauleen Gorospe (39)

Preventing Diversion: A Challenge for Arms Trade Treaty States Parties

Nicholas Marsh (55)

Jet Age Feminism: Emilio Pucci, Mary Wells, and the Braniff Airways Stewardess of the 1960s

Phil Tiemeyer (67)

Pakistani Civil Aviation and U.S. Aid to Pakistan, 1950 to 1961

S. Waqar H. Zaidi (83)

戦前期日本の武器生産問題と武器輸出商社—泰平組合と昭和通商の役割を中心に—

額綱厚 (99)

イギリス海軍における節約と旧式艦の処分—クリミア戦争からワシントン海軍軍縮条約を中心に—

小風尚樹 (127)

書評

渡辺昭一編著『冷戦変容期の国際開発援助とアジア——一九六〇年代を問う—』

脇村孝平 (157)

第 9 号 (2020 年 1 月)

『国際武器移転史』第 9 号の刊行によせて

横井勝彦 (1)

論説

Taiwan's Security Policy since the Cold War Era: A Review of External Military Assistance and the Development of Indigenous Defence Industry

Fu-Kuo Liu (3)

Distinctions of the ROK National Security Policy and the Pursuit of Military Independence during the Cold War

Kyengho Son (27)

International Networks and Aircraft Manufacture in Colonial and Postcolonial India: States, Entrepreneurs and Educational Institutions, 1940-64

Aparajith Ramnath (41)

リビア戦争におけるイタリアの航空機利用—航空作戦とプロバガンダの視点から—

林優来 (61)

19 世紀中葉のイギリス海軍における煙害防止技術の軍事的意味転換

赤津正彦 (87)

書評

後瀉桂太郎著『海洋戦略論—大国は海でどのように戦うのか—』

矢吹啓 (111)

竹内真人編著『ブリティッシュ・ワールド—帝国紐帯の諸相—』

左近幸村 (115)

額綱厚著『日本政治史研究の諸相—総力戦・植民地・政軍関係—』

白戸伸一 (119)

第 10 号 (2020 年 7 月)

『国際武器移転史』第 10 号の刊行によせて

横井勝彦 (1)

論説

脱植民地化期の西アフリカ・ガーナが主導した核兵器廃絶運動と日本の平和運動—3 名の日本人による経験をを通して—

溝辺泰雄 (3)

Migration, Naturalisation, and the 'British' World, c.1900-1920

Rachel Bright (27)

The Importance of Being 'British'? Australia, Canada, New Zealand and the Cultural Economy of Empire in the Interwar Era

Felicity Barnes (45)

Economic Governance in the Empire-Commonwealth in Theory and in Practice, c. 1887-1975

Andrew Dille (63)

International Lawyers' Failing: Outlawing Weapons as an Imperfect Project of the Classical Laws of War

Miloš Vec (83)

'Weapons of Mass Destruction': Historicizing the Concept

Ido Oren and Ty Solomon (121)

第 11 号 (2021 年 1 月)

『国際武器移転史』第 11 号の刊行によせて

横井勝彦 (1)

論説

Fray San Martin de la Asunción による軍事行使論について—長崎・平戸・台湾征服の目的と背景に関する分析と考察—

高橋裕史 (3)

アメリカの研究開発資金の源泉と配分—大学政策、技術移転への影響—

塙武郎 (25)

第二次世界大戦期アメリカ合衆国の戦略爆撃作戦と戦時経済体制

藤田怜史 (51)

1902 年植民地会議における帝国海軍同盟構想と帝国通商同盟構想—イギリス、オーストラリア、カナダの交渉戦略—

松永友有 (81)

技術移転・ライセンス生産・戦力化 —日本陸海軍によるドイツ航空技術の活用 (1935～45 年)—

西尾隆志 (111)

書評

榎本珠良編著『禁忌の兵器 —パリア・ウェポンの系譜学—』

河合公明 (137)

(2) 研究叢書 (①～⑥)

①横井勝彦編『航空機産業と航空戦力の世界的転回』

(日本経済評論社、2016 年)、x+390 頁。

序章

第 I 部 両大戦間期

第 1 章 日本における陸軍航空の形成 (鈴木 淳)

第 2 章 日本海軍における航空機生産体制の形成と特徴 (千田 武志)

第 3 章 ドイツ航空機産業とナチス秘密再軍備 (永岑 三千輝)

第 4 章 ルフトハンザ航空の東アジア進出と欧亚航空会社 (田嶋 信雄)

第 5 章 戦間期航空機産業の技術的背景と地政学的背景—海軍航空の自立化と戦略爆撃への道— (小野塚 知二)

第 II 部 第二次大戦期および戦後冷戦期

第 6 章 ドイツ航空機産業発展におけるアメリカ資本の役割—ユンカース爆撃機 Ju88 主要サブライヤーとしてのアダム・オペル社— (西牟田 祐二)

第 7 章 ラテンアメリカの軍・民航空における米独の競合—航空機産業、民間航空を中心に— (高田 馨里)

第 8 章 戦前・戦後カナダ航空機産業の形成と発展 (福士 純)

第 9 章 戦後冷戦下のインドにおける航空機産業の自立化 (横井 勝彦)

②榎本珠良編『国際政治史における軍縮と軍備管理』

(日本経済評論社、2017 年)、vii+294 頁。

序章 武器移転規制と軍備の削減・制限をめぐる歴史 (榎本 珠良)

第 1 章 アフリカ銃貿易とブリュッセル会議 (一八八九～九〇年)—ソールズベリー首相はなぜ銃貿易規制を推進したのか— (竹内真人)

第 2 章 両大戦間期における軍勢力と国際的不安定性 (ジョセフ・マイオロ)

第 3 章 第二次ロンドン海軍軍縮会議予備交渉の過程 (小谷 賢)

第 4 章 ジュネーヴ軍縮会議に至るイギリス国際軍縮政策とフランス安全保障問題 (松永 友有)

第 5 章 戦間期武器貿易規制交渉の帰結と遺産 (キース・クラウス)

第 6 章 アメリカの戦時在外余剰資産の処分と武器移転—国務省対外清算局の活動 (一九四五～四九年)を中心に— (須藤 功)

第 7 章 冷戦終結後の通常兵器移転規制の進展と限界 (榎本珠良)

終章 軍縮・軍備管理の学際的研究に向けた諸課題 (榎本珠良)

③竹内真人編『ブリティッシュ・ワールド—帝国紐帯の諸相—』

(日本経済評論社、2019 年)、viii+330 頁。

総 論 ブリティッシュ・ワールド論の射程 (竹内真人)

第 1 章 ブリテン・アイルランド間の民兵互換—ブリティッシュ・ワールド「本国」における紐帯— (勝田俊輔)

第 2 章 インドにおけるイギリス自由主義的帝国主義 (竹内真人)

第 3 章 時計時間の移植と管理—イギリス帝国の植民地天文台と時報技術— (石橋悠人)

第 4 章 ジェントルマン資本主義論が言わずにすませ、見ずにすませていること—ブリティッシュ・ワールド論との関連で— (アンドリュー・ディリー)

第 5 章 帝国特惠関税同盟構想の理想と現実—ジョゼフ・チェンパレンのヴィジョンの挫折— (松永友有)

第 6 章 カナダ自由党と自由主義的帝国主義論 (福士純)

第 7 章 コモンウェルスという神話—殖民・植民地主義、大ブリテン構想、ラウンド・テーブル運動をめぐる系譜学— (馬路智仁)

- 第8章 第二次大戦戦時にブリティッシュなるものを放送するーラジオとブリティッシュ・ワールドー (サイモン・ポッター)
- 第9章 アトリー政権期のCOMMONWEALS防衛と南アジア (渡辺昭一)
- 第10章 独立後インドの「軍事的自立化」とイギリスの位置 (横井勝彦)

④榎本珠良編『禁忌の兵器ーパリア・ウェポンの系譜学ー』

- (日本経済評論社、2020年)、viii+404頁。
- 序章 パリア・ウェポンの系譜学 (榎本珠良)
- 第1章 国際法学者の失敗ー古典的戦争法における未完のプロジェクトとしての兵器違法化ー (ミロシュ・ヴェッツ)
- コラム1 ダムダム弾ー「文明」と「野蛮」の境界ー (竹内真人)
- コラム2 いまだ存在しない兵器の禁止ー化学兵器・生物兵器の事例ー (榎本珠良)
- 第2章 戦間期のイギリス軍縮政策と質的軍縮論ー「攻撃的兵器」の規制をめぐるー (松永友有)
- 第3章 イギリスを中心とした戦間期の空爆禁止議論 (小谷賢)
- コラム3 戦間期イギリスにおける重戦車開発ー潰えた大型陸上軍艦の夢ー (山下雄司)
- 第4章 「大量破壊兵器」概念の歴史化 (イド・オレン、タイ・ソロモン)
- 第5章 戦略的なタブーー化学兵器とアメリカ外交政策ー (ミシェル・ベントリー)
- 第6章 特定通常兵器使用禁止制限条約 (CCW)の成立過程ー軍事大国と弱小国の相克と妥協ー (岩本誠吾)
- 第7章 「地雷危機」の構築と地雷のパリア化ー開発と安全保障の融合の時代ー (榎本珠良)
- 第8章 「非人道的」兵器のスティグマタイゼーションを再考するークラスター弾禁止と禁止賛同派の戦略ー (福田 毅)
- コラム4 「自律型致死兵器システム」(LAWS)の禁止論と交渉の展望 (佐藤丙午・森山 隆)
- コラム5 「殺人ドローン」と呼ばれる武装無人航空機をめぐる議論の現状 (森山 隆)
- 終章 「パリア・ウェポン」研究とその課題 (榎本珠良)
- 国際合意文書一覧

⑤高田馨里編『航空の20世紀ー航空熱・世界大戦・冷戦ー』

- (日本経済評論社、2020年)、ix+424頁。
- 序章
- 第I部 「航空熱」の時代

- 第1章 航空熱と世界記録更新ー技術革新の時期・主体・方向性ー (小野塚知二)
- 第2章 大正期の飛行熱 (鈴木 淳)
- 第3章 海軍航空機生産構想と実現の方法ー航空機廠構想から呉海軍工廠広支廠航空機部の設立までー (千田武志)
- 第4章 航空機開発と大西洋横断飛行ーエンカースの挑戦と航空熱ー (永岑三千輝)
- 第II部 世界大戦の時代
- 第5章 日独航空連絡の展開 1919～1945ー民間の航空熱から軍事航空へー (田嶋信雄)
- 第6章 戦前戦中期における軍と大学ー東京帝国大学航空研究所と航空学科の事例ー (水沢 光)
- 第7章 太平洋戦争における日本航空戦力の配備・補給 (西尾隆志)
- 第8章 ライセンス生産の失敗ー三式戦闘機「飛燕」のエンジン・トラブルをめぐるー (西牟田祐二)
- 第III部 冷戦の時代
- 第9章 日本の翼の消滅から復活へー米ソ冷戦とアメリカの対日民間航空政策の再検討ー (高田馨里)
- 第10章 冷戦期インドにおけるナショナル・エアパワの形成 (横井勝彦)
- 第11章 パキスタン民間航空とアメリカの対パキスタン援助 1950～1961 (S・ワカー・H・ザイディ)
- 第12章 ジェット時代のフェミニズムーエミリオ・ブッチ、メアリー・ウェルズと1960年代のブランフ航空のスチュワーデスー (フィル・ティーマイヤー)

あとがき

⑥横井勝彦編『冷戦期アジアの軍事と援助』

- (日本経済評論社、2021年)、viii+356頁。
- 序章 冷戦期アジアの軍事と援助
- 第I部 冷戦前の軍民転換・武器移転・地域経済
- 第1章 総力戦と非軍事工業の軍需生産動員・変容の日英比較 (白戸伸一)
- 第2章 光学産業における疎開工場の意義ー日本光学の塩尻への疎開と八陽光学によるカメラ生産ー (山下雄司)
- 第3章 インド航空機産業の創設と国際ネットワークー一九四〇～六四年ー (アパラジス・ラムナス)
- 第II部 冷戦期の国際援助ー援助の時代区分、種類、目的ー
- 第4章 戦後アメリカの対外軍事援助と軍産複合体 (須藤 功)
- 第5章 アメリカの技術援助とインド鉄鋼業ーフォード財団の活動からー (下斗米秀之)
- 第6章 南アジアにおける英米の軍事援助交渉ーMiG-21取引をめぐるー (渡辺昭一)

- 第Ⅲ部 冷戦期アジアの軍事的自立化
 第7章 冷戦期インドの軍事的自立化と頭脳流出
 (横井勝彦)
 第8章 冷戦以降の台湾の安全保障政策—軍事援助
 と国防産業の発展に関する考察—
 (劉復國)

- 第9章 韓国の安全保障政策の特徴と冷戦期におけ
 る軍事的独立の追求 (ソン・キョンホ)
 第10章 冷戦期日本の防衛産業と武器移転 —自立
 と同盟の狭間で— (瀧澤厚)
 あとがき

(3) シンポジウム

明治大学国際武器移転史研究所主催 設立記念シンポジウム

- 「軍備管理と軍事同盟のいま」を問う
 【日時】2015年11月17日(火曜日)18:00～21:00
 【場所】明大駿河台キャンパス グローバルフロント
 1階グローバルホール
 【登壇者・進行】
 司会 横井勝彦(明治大学商学部教授・国際武器移
 転史研究所長)
 第1報告 国際武器移転史研究所の目指すもの 横
 井勝彦
 第2報告 戦争と平和と経済—2015年の「日本」を
 考える—
 小野塚知二(東京大学大学院経済学研究
 科教授)
 第3報告 イスラム過激派のネットワークと現行世
 界秩序の変化
 佐原徹哉(明治大学政治経済学部教授)
 第4報告 21世紀の武器貿易は規制できるか—武器
 貿易条約(ATT)の実施をめぐる課題から
 —榎本珠良(明治大学研究知財戦略機構
 共同研究員)

第2回シンポジウム

- 「航空機の軍民転用と国際移転」
 【日時】2016年1月19日(火曜日)18:00～20:30
 【場所】明大駿河台キャンパスグローバルフロント1
 階 グローバルホール
 【登壇者・進行】
 司会 横井勝彦(明治大学商学部教授・国際武器移
 転史研所長)
 第1報告 ヴェルサイユ体制下ドイツ航空機産業の
 世界的転回—ナチ秘密再軍備の前提を考
 える—永岑三千輝(横浜市立大学名誉教
 授)
 第2報告 軍事航空と民間航空—戦間期における軍
 縮破綻と航空問題—
 高田馨里(大妻女子大学比較文化学部准
 教授)
 第3報告 現代日本の航空機産業と武器移転—無人

- 航空機(ドローン)の軍民転用の実際—
 佐藤丙午(拓殖大学国際学部・海外事
 情研究所教授)
 コメント 小野塚知二(東京大学大学院経済学研究
 科教授)

第3回シンポジウム

- 「第二次世界大戦は不可避だったのか —軍
 縮・軍備管理から考える—」
 【日時】2016年5月31日(火)18:30～20:30
 【場所】明大駿河台キャンパス グローバルフロン1
 階 GH
 【登壇者】
 司会 榎本珠良(明大研究知財共同研究員)
 第1報告 ジュネーヴ海軍軍縮会議(1927)決裂の
 背景
 倉松中(青山学院大学国際政治経済学部
 准教授)
 第2報告 ジュネーヴ軍縮会議(1932-34)の挫折過
 程
 松永友有(横浜国立大学国際社会科学研
 究院教授)
 第3報告 第二次ロンドン海軍軍縮会議予備交渉
 (1934)の過程
 小谷賢(日本大学危機管理学部教授)

第4回シンポジウム

- 「世界の大学における軍縮研究—ヨーロッパ
 の研究・教育機関を中心に」
 【日時】2016年11月22日(火)18:30～20:30
 【場所】明大駿河台キャンパス グローバルフロント
 1階 GH
 【登壇者】
 第1報告 「ジュネーヴ高等国際・開発問題研究所ス
 モール・アームズ・サーベエの歴史と
 課題」
 キース・クラウス ジュネーヴ高等国際・
 開発問題研究所教授
 第2報告 「ロンドン大学キングス・カレッジ戦争研
 究学部の歴史と課題」

ジョセフ・マイオロ ロンドン大学キン
グス・カレッジ教授

第5回シンポジウム

「冷戦期南アジアにおける軍事援助の展開」

【日時】2017年6月27日（火曜日）18:30～20:30

【場所】明治大学駿河台キャンパス リバティタワー
12階 1126教室

【報告者】渡辺昭一（東北学院大学文学部）「イギリスのプレゼンスと軍事援助」
横井勝彦（明治大学商学部）「インドの兵器国産化政策と軍事援助」

第6回シンポジウム

「ブリティッシュ・ワールド研究の新視点— 帝国紐帯の政治経済史—」

【日時】2017年11月21日（火）18:30～20:30

【場所】明治大学駿河台キャンパス リバティタワー
11階 1114教室

司会 横井勝彦（明治大学商学部教授・国際武器移
転史研所長）

【報告者】竹内真人（日本大学商学部）「ブリティッ
シュ・ワールド論とインド」
福士純（岡山大学）「カナダにおける帝国
特惠関税論争の再検討」

第7回シンポジウム

「武器貿易条約（ATT）第4回締約国会議直 前シンポジウム

—世界の武器移転をめぐる理想と現実—

【日時】2018年8月18日

【場所】グローバルホール

【報告者】

第1報告 榎本珠良「武器移転規定の歴史とATTの
課題」

第2報告 佐藤丙午「第二次世界大戦後の安全保障
貿易管理レジームの歴史と課題」

第3報告 ポール・ホルト「武器貿易条約（ATT）の
諸課題：報告と透明性の課題」

第4報告 オーウェン・グリーン「武器貿易条約（ATT）
の諸課題：実施の課題」

第5報告 ミツィ・アウステロ「武器貿易条約（ATT）
の諸課題：アジアにおける普遍化の課題」

第8回シンポジウム

「冷戦期における台湾・韓国の安全保障政策 —軍事援助と軍事的自立化をめぐる—」

【日時】2018年12月18日

【場所】グローバルホール

【報告者】

第1報告 劉復國（台湾国立政治大学国際関係研究
センター教授）

第2報告 ソン・キョンホ（韓国国防大学軍事戦略
研究センター教授）

コメント 額綱厚（明治大学研究・知財戦略機構
特任教授）

第9回シンポジウム（共催、オンライン）

「ジェンダーと軍備管理・安全保障」

【日時】2020年9月23日

報告者：榎本珠良（明治大学 特任教授）

田中極子（防衛省防衛研究所 主任研究官）

和田賢治（武蔵野学院大学 准教授）

討 論：大治朋子（毎日新聞 編集委員）

三牧聖子（高崎経済大学 准教授）

第10回シンポジウム（後援、オンライン）

「ポスト・コロナの軍備管理・軍縮を展望す る」

【日時】2020年11月27日

報告者：佐藤丙午（拓殖大学 教授）

岡田晃枝（東京大学 准教授）

林明仁（上智大学 客員所員）

討 論：齊藤孝祐（横浜国立大学 特任准教授）

小山淑子（早稲田大学 准教授）

第11回シンポジウム（共催、オンライン）

‘Past, Present and Future of Humanitarian and Development : Aid Rethinking the Aid Sector with Binalakshmi Nepam’

【日時】2021年2月4日

Presenters :

Binalakshmi Nepam, Founder of the Manipur Women
Gun Survivors Network

Shinya Konaka, Professor at the University of Shizuoka

Tamara Enomoto, Professor at Meiji University

Discussants :

Go Shimada, Associate Professor at Meiji University

Sayaka Ogawa, Professor at Ritsumeikan University

(4) 国際ワークショップ

第1回国際ワークショップ

「難民危機と中東・バルカン：紛争の連鎖と武器移転」

【日時】2016年7月2日（土曜日）13:00-17:45
【場所】明治大学駿河台キャンパス アカデミーコモン8階308G
【登壇者】

司会 佐原徹哉（明治大学政経学部教授）
開会の辞 横井勝彦（明治大学商学部教授・国際武器移転史研究所長）

第1セッション「武器移転と地域紛争」

第1報告 武器移転メカニズムと「イスラム国」の誕生

佐原徹哉（明治大学政経学部教授）

第2報告 非国家主体への武器移転の規制：19世紀から現在まで

榎本珠良（明治大学研究知財戦略機構 共同研究員）

第3報告 「イスラム国」とヒジュラについて

保坂修司（日本エネルギー研究所研究理事）

第2セッション「紛争と難民危機」

第1報告 難民移送とビザ廃止を巡る欧州連合とトルコの合意が意味する問題のすり替え

ムスタファ・トルケシ（中東工科大教授）

第2報告 集団的記憶から現実の最前線へ：ギリシャ国家と社会が直面する難民・移民問題、1980-2016

タソス・コストプロス（EFSN 紙記者）

第3報告 シリア内戦の周辺地域への影響：「イスラム国」、ヒズボラ、イスラエル軍を中心に小副川琢（明治大学兼任講師）

司会 森山央朗（同志社大学）

第2回国際ワークショップ

“Japan’s Rush to the Pacific War: Civil-Military Relations, Threat Perception, and the 1936 Withdrawal from the Washington System”

【日時】2017年1月16日（月）18:30～20:30

【場所】明治大学駿河台キャンパス リバティータワー9階 1095室

【登壇者】

司会 榎本珠良（明治大学国際武器移転史研究所）

報告者 リオネル・ファットン（Dr. Lionel Fatton）

Lecturer, Webster

University Geneva; Research Associate, CERISciences Po Paris)

コメンテーター 植木（川勝）千可子（早稲田大学教授）

第3回国際ワークショップ

「イギリスの戦車生産と戦時経済 1937-1945年」

【日時】2017年3月8日（水）14:00開始

【場所】明治大学グローバルフロント17階C6会議室

【登壇者】

司会 山下雄司（日本大学経済学部准教授）

報告者 Benjamin Coombs（元ケント大学助教・イギリス）

第4回国際ワークショップ

「戦間期の軍縮における科学技術の概念化—航空の技術転用と軍事的乱用、1919～1945年—」

【日時】2017年3月27日（月）15:00時開始

【場所】明治大学アカデミーコモン9階309C教室

【登壇者】

司会 竹内真人（日本大学商学部准教授）

報告者 S. Waqar H. Zaidi（ラホール経営科学大学・パキスタン）

(5) 国際セミナー

第1回国際セミナー

「ジェントルマン資本主義論の省略と回避 (Elisions and Elusions of Gentlemanly Capitalism)」

【日時】2017年4月11日

【場所】明治大学駿河台キャンパス・グローバルフロント17階C5会議室

【報告者】アンドリュー・ディリー（アバディーン大学・イギリス）

第2回国際セミナー

「第二次世界大戦におけるブリティッシュネス報道—ラジオとブリティッシュ・ワールド (Broadcasting Britishness during the Second World War: Radio and the British World)」

【日時】2017年4月13日

【場所】明治大学駿河台キャンパス・グローバルフロント17階C5会議室

【報告者】サイモン・ボッター (ブリストル大学・イギリス)

第3回国際セミナー

「冷戦期国際航空研究の新動向—脱植民地化とジェンダーの観点から—」

【日時】2018年11月24日

【場所】明治大学グローバルフロント7階C4会議室

【報告者】

第1報告 ワカー・ザイディ (ラホール経営科学大学・パキスタン)

「アメリカ合衆国がパキスタン民間航空の発展に果たした役割」

第2報告 フィル・ティーメイヤー (カンザス州立大学・アメリカ)

「ジェット時代のフェミニズム—エミリオ・プッチ、メアリー・ウェルズと1960年代ブラニフ航空のスチュワーデス—」

第4回国際セミナー

「係争地域における武器移転と循環メカニズム—バルカンと中東の事例を中心に—」

【日時】2019年2月6日

【場所】明治大学グローバルフロント7階C4会議室

【報告者】

第1報告 アンドレ・エデムスキ (ロシア科学アカデミー)

「ソ連・ユーゴ論争 (1948-54) と1990年代初頭までのその影響」

第2報告 ダニエル・マンディチ (ハーバード大学社会学科講師)

「欧州難民危機：強制移住の背景にある密輸・密航・組織犯罪に注目して」

第5回国際セミナー「独立前夜インド航空機産業の誕生と国際ネットワーク」

【日時】2019年6月4日

【場所】明治大学駿河台キャンパス・グローバルフロント17階C6会議室

【報告者】アパラジス・ラムナス (アーメダバード大学・インド)

第6回国際セミナー

Japan's Awakening: Moving Toward an Autonomous Security Policy

【日時】2019年7月5日

【場所】明治大学駿河台キャンパス・グローバルフロント17階C5会議室

【報告者】リオネル・ファットン (ウェブスター大学・スイス)

第7回国際セミナー

「帝国＝コモンウェルスにおける経済、文化、ガバナンス、1886～1975年 (Economics, Culture and Governance in the Empire-Commonwealth, 1886-1975)」

【日時】2019年11月26日

【場所】明治大学駿河台キャンパス・グローバルフロント17階C5会議室

【報告者】アンドリュース・ディリー (アバディーン大学・イギリス)

第8回国際セミナー

「移民、帰化、そして『ブリティッシュ』・ワールド、c.1900～1945年 (Migration, Naturalisation and the 'British' World, c.1900-1945)」

【日時】2019年11月28日

【場所】明治大学駿河台キャンパス・グローバルフロント17階C6会議室

【報告者】レイチェル・ブライト (キール大学・イギリス)

第9回国際セミナー

「『ブリティッシュ』であることの重要性？ 戦間期におけるオーストラリア、ニュージーランド、帝国の文化経済 (The Importance of Being 'British'? Australia, New Zealand and the Cultural Economy of Empire in the Interwar Era)」

【日時】2019年11月28日

【場所】明治大学駿河台キャンパス・グローバルフロント17階C6会議室

【報告者】フェリシティ・バーンズ (オークランド大学・ニュージーランド)

(6) 兵器産業・武器移転史フォーラム

第 47 回 兵器産業・武器移転史フォーラム

【日時】2015 年 6 月 20 日（土）14:00-18:00

【場所】東京大学本郷キャンパス経済学研究科棟 12 階第 1 共同研究室

【報告者と論題】

小野寺香月（神戸大学大学院経済学研究科）

「小野浜造船所における技術移転の方法」

武田和久（早稲田大学高等研究所）

「イエズス会とグローバル・ミリタリー・ヒストリー—旧スペイン領南米ラプラタ地域における布教活動を中心に—」

第 50 回 兵器産業・武器移転史フォーラム

【日時】2016 年 1 月 30 日（土）14:00-18:00

【場所】明治大学駿河台キャンパス グローバルフロント 17 階 C6 会議室

【報告者と論題】

山下雄司（日本大学経済学部）「イギリスにおける標準化と互換性生産への試み：1901-1918 — Engineering Standards Committee の活動と軍需省によるゲージ生産への監督を中心として—」

小野塚知二（東京大学経済学研究科）「戦略は兵器に従う—手段の規定性についての一つの試論—」

第 51 回 兵器産業・武器移転史フォーラム

【日時】2016 年 4 月 23 日（土）14:00-18:00

【場所】明治大学駿河台キャンパス グローバルフロント 17 階 C6 会議室

【報告者と論題】

石橋悠人（新潟大学現代社会文化研究科）「19 世紀イギリスにおける海軍と科学研究—時報技術の開発と移転を事例に—」

篠崎正郎（防衛省・統合幕僚監部）「冷戦期のイギリス防衛政策における中東」

第 52 回 兵器産業・武器移転史フォーラム

【日時】2016 年 6 月 17 日（土）14:00-18:00

【場所】明治大学駿河台キャンパス グローバルフロント 17 階 C6 会議室

【報告者と論題】

西尾隆志（明治大学大学院文学研究科）「日独航空技術交流（1922～1945 年）—日本軍事技術開発における「自立」と「欧米依存」の相克—」

勝田俊輔（東京大学文学部・大学院人文社会系研究科）「ブリティッシュ・ワールド（論）におけるアイルランドの位置づけ」

第 53 回 兵器産業・武器移転史フォーラム

【日時】2016 年 10 月 15 日（土）14:00-18:00

【場所】明治大学駿河台キャンパス グローバルフロント 17 階 C6 会議室

【報告者と論題】

貝賀早希子（国際基督教大学平和研究所）「トランスナショナル・ムーブメント？ 英米国際連盟運動の展開、1914-18」

津田博司（筑波大学大学院人文社会科学系研究科）「オーストラリアにおけるナショナリズム研究からみた『ブリティッシュ・ワールド』」

第 55 回 兵器産業・武器移転史フォーラム

【日時】2017 年 4 月 22 日（土）14:00-18:00

【場所】明治大学駿河台キャンパス グローバルフロント 17 階 C6 会議室

【報告者と論題】

合評会 横井勝彦編『航空機産業と航空戦力の世界的転回』日本経済評論社。

評者：山田 朗（明治大学文学部）

西川純子（獨協大学名誉教授）

第 56 回 兵器産業・武器移転史フォーラム

【日時】2017 年 5 月 5 日（土）14:00-18:00

【場所】東京大学本郷キャンパス経済学研究科棟 12 階第 1 共同研究室

【報告者と論題】

パネル「武器への道徳的な問いの諸相」

報告者と論題：

問題提起：小野塚知二（東京大学）

報告：

武井弘一（琉球大学）「日本近世の百姓の銃砲所持・利用の規範」

小野塚知二「19 世紀後半～20 世紀初頭軍拡期の国家・民族の「独立・自衛」と武装・武器移転正当化論」

佐原徹哉（明治大学）「超域的テロ・ネットワークにおける武装正当化論」

コメント：

竹内真人（日本大学）「19 世紀末～20 世紀初頭の武器＝労働力交易規制論から」

榎本珠良（明治大学）「現在の非国家主体への武器移転規制の取り組みと規範論から」

第 57 回 兵器産業・武器移転史フォーラム

【日時】2017 年 6 月 17 日（土）14:00-18:00

【場所】明治大学駿河台キャンパス グローバルフロント 17 階 C6 会議室

【報告者と論題】

下斗米秀之（敬愛大学）「アメリカ移民制限政策の成立と企業・経営者団体」

白戸伸一（明治大学）「史上初のタンク生産地における産業展開」

山下雄司（日本大学）「戦間期におけるイギリスの戦車輸出に関する研究展望」

第 58 回 兵器産業・武器移転史フォーラム

【日時】2017 年 10 月 7 日（土）14:00-18:00

【場所】明治大学駿河台キャンパス グローバルフロント 17 階 C6 会議室

【報告者と論題】

合評会：榎本珠良編『国際政治史における軍縮と軍備管理—19 世紀から現代まで—』日本経済評論社、2017 年

評 者：福田 毅（拓殖大学）

後藤春美（東京大学総合文化研究科）

第 60 回 兵器産業・武器移転史フォーラム

【日時】2018 年 1 月 27 日（土）14:00-18:00

【場所】明治大学駿河台キャンパス グローバルフロント 17 階 C5 会議室

【報告者と論題】

小風尚樹（東京大学大学院）「19 世紀半ばにおけるイギリスの対清軍艦売却」

大井知範（明治大学）「第一次世界大戦前の英独建艦競争とアジア太平洋」

第 61 回 兵器産業・武器移転史フォーラム

【日時】2018 年 4 月 21 日（土）14:00-18:00

【場所】明治大学駿河台キャンパス グローバルフロント 1 階多目的会議室

【報告者と論題】合評会

一ノ瀬俊也著『飛行機の戦争 1914-1945：総力戦体制への道』（講談社、2017 年）

評者：鈴木 淳（東京大学）

水沢光著『軍用機の誕生：日本軍の航空戦略と技術開発』（吉川弘文館、2017 年）

評者：永岑三千輝（横浜市立大学名誉教授）

第 62 回 兵器産業・武器移転史フォーラム

【日時】2018 年 6 月 9 日（土）14:00-18:00

【場所】明治大学駿河台キャンパス グローバルフロント 17 階 C6 会議室

【報告者と論題】

合評会 渡辺昭一編『冷戦変容期の国際開発援助とアジア：1960 年代を問う』

（ミネルヴァ書房、2017 年）

評者：須藤 功（明治大学政治経済学部）

脇村孝平（大阪市立大学経済学部）

第 63 回 兵器産業・武器移転史フォーラム

【日時】2018 年 10 月 13 日（土）14:00-18:00

【場所】明治大学駿河台キャンパス グローバルフロント 17 階 C6 会議室

【報告者と論題】

林 優来（東京大学大学院）「イタリア航空機の黎明—飛行船開発からリビア戦争まで—」

佐藤 滋（東北学院大学）「1960 年代における対マレーシア経済・軍事援助政策の変容—アジア太平洋経済圏の胎動と援助をめぐる攻防—」

第 65 回 兵器産業・武器移転史フォーラム

【日時】2019 年 2 月 23 日（土）14:00-18:00

【場所】明治大学駿河台キャンパス グローバルフロント 17 階 C6 会議室

【報告者と論題】

赤津正彦（明治大学）「19 世紀イギリス海軍と環境技術—燃料および燃焼技術を中心に—」

祖父江利衛（関東学院大学非常勤講師）「両大戦間期における軍縮下の軍に関する研究への一試論—第 1 次大戦後、国際社会が直面していた喫緊の課題とは—」

第 66 回 兵器産業・武器移転史フォーラム

【日時】2019 年 6 月 22 日（土）14:00-18:00

【場所】明治大学駿河台キャンパス グローバルフロント 17 階 C6 会議室

【報告者と論題】

小野塚知二（東京大学）「被害者意識に彩られたナショナリズムへの回帰—第一次世界大戦開戦原因の謎と近年のポピュリズム—」

溝辺泰雄（明治大学）「20 世紀中葉のアフリカにおける核兵器廃絶運動」

第 68 回 兵器産業・武器移転史フォーラム

【日時】2019 年 11 月 2 日（土）14:00-18:00

【場所】明治大学駿河台キャンパス グローバルフロント 17 階 C6 会議室

【報告者と論題】

和田龍太（東海大学）「中国をめぐる英米関係：イギリスによる航空機技術の対中輸出を中心に、1969-1975 年」高橋裕史（帝京大学）「ローマ帝国時代におけるキリスト教と軍事の相互関係について—「non occides」から「in hoc signo vinces」へ—」

第 69 回 兵器産業・武器移転史フォーラム

【日時】2020 年 4 月 18 日（土）ウェブ開催

【報告者と論題】

高橋裕史（帝京大学）「対日経済・軍事活動をめぐる修道会の相克—イエズス会とフランシスコ会の抗争—」

山下雄司（日本大学）「第二次世界大戦後における疎開工場によるカメラ生産の意義—八陽光学・岡谷光学の事例—」

第 70 回 兵器産業・武器移転史フォーラム

【日時】2020 年 7 月 25 日（土）ウェブ開催

【報告者と論題】

藤田怜史（明治大学非常勤講師）「第二次世界大戦時
アメリカの戦略爆撃作戦と戦時経済体制」

塙 武郎（専修大学）「アメリカの研究開発資金の源
泉と配分 ―大学政策、技術移転への影響―」

第 71 回 兵器産業・武器移転史フォーラム

【日時】2020 年 8 月 22 日（土）ウェブ開催

【報告者と論題】

榎本珠良編著『禁忌の兵器 ―パーリア・ウェポン
の系譜学』

（日本経済評論社、2020 年 2 月刊）.

評者：小野塚知二（東京大学）、河合公明（戸田記念
国際平和研究所）

第 72 回 兵器産業・武器移転史フォーラム

【日時】2020 年 11 月 28 日（土）ウェブ開催

【報告者と論題】

高田馨里編著『航空の 20 世紀 ―航空熱・世界大戦・
冷戦―』（日本経済評論社、2020 年 3 月刊）.

評者：藤原辰史（京都大学）、木畑洋一（東京大学・
成城大学名誉教授）

第 73 回 兵器産業・武器移転史フォーラム

【日時】2021 年 4 月 17 日（土）ウェブ開催

【報告者と論題】

水野祥子（駒澤大学）「植民地科学者と開発・環境」

杉山遼太郎（青山学院大学非常勤講師）

「20 世紀初頭のイギリス開税改革運動における安全
保障政策としての視点」

以上